クロス集計

縦軸と横軸のフィールドの値ごとにレコードをまとめ、件数や合計を表の形で求める

◇機能

《クロス集計》は、縦軸フィールドの値を行、横軸フィールドの値を列とする表を作り、行と列が交わるセルに、該当するレコードの件数や合計を求める機能です。結果は画面に表示するか、新しいテーブルとして作成できます。元のテーブルは変更されません。

元のテーブル（売上明細）

売上日	得意先	商品No	数量	担当者
2024/04/10	A社	A01	4	佐藤
2024/04/12	B社	B02	3	鈴木
2024/05/20	A社	A01	6	田中
2024/05/25	A社	B02	5	田中
2024/06/15	B社	A01	10	鈴木
2024/06/18	C社	B02	3	高橋
2024/06/20	A社	A01	2	高橋



クロス集計の結果（縦軸：得意先、横軸：商品No、小計：数量）

得意先	数量_A01	数量_B02
A社	12	5
B社	10	3
C社	0	3

※結果の行は、縦軸フィールドの値の昇順に並びます（元のテーブルの順ではありません）。数値は値の順、日付は日付の順、文字は文字コードの順です。縦軸フィールドが空欄の行は先頭になります。

※縦軸フィールドを複数選択した場合は、すべての値の組み合わせごとに1行になります（レコードがある組み合わせだけ）。並び順は1つ目のフィールドの順で、同じ場合は2つ目のフィールドの順です。

※文字の比較では、大文字・小文字、全角・半角、前後の空白が区別されます（例：「A社」と「a社」は別の行、別の列です）。

※該当するレコードがないセルは、0（時間の場合は00:00:00）になります（例のC社のA01）。

◇メニュー

《分析》-《クロス集計》

※テーブルを開いている場合に使用できます。開いているテーブルがクロス集計の元のテーブルになります。

※テーブルの画面で条件式を設定している場合は、その条件式が「条件式」に入力された状態で開きます。

※テーブルの画面で列を1つまたは2つ選択してからクリックすると、その列が縦軸フィールドに選択された状態で開きます。

※列を3つ以上選択してからクリックすると、画面は開かずにクロス集計が実行され、結果が画面に表示されます。最後に選択した列が横軸フィールド、それ以外の列が選択した順に縦軸フィールドになり、各セルにはレコードの件数が表示されます。

※操作ログからクロス集計のコマンドを修正することもできます（「■ 操作ログからコマンドを修正する場合」参照）。

■ 操作ログからコマンドを修正する場合

操作ログでクロス集計のコマンドを修正すると、コマンドの内容が設定された状態で画面が開きます。

※縦軸フィールドとクロス集計方法のフィールドは、コマンドに記述された順に選択されます。テーブルにないフィールドは選択されません。

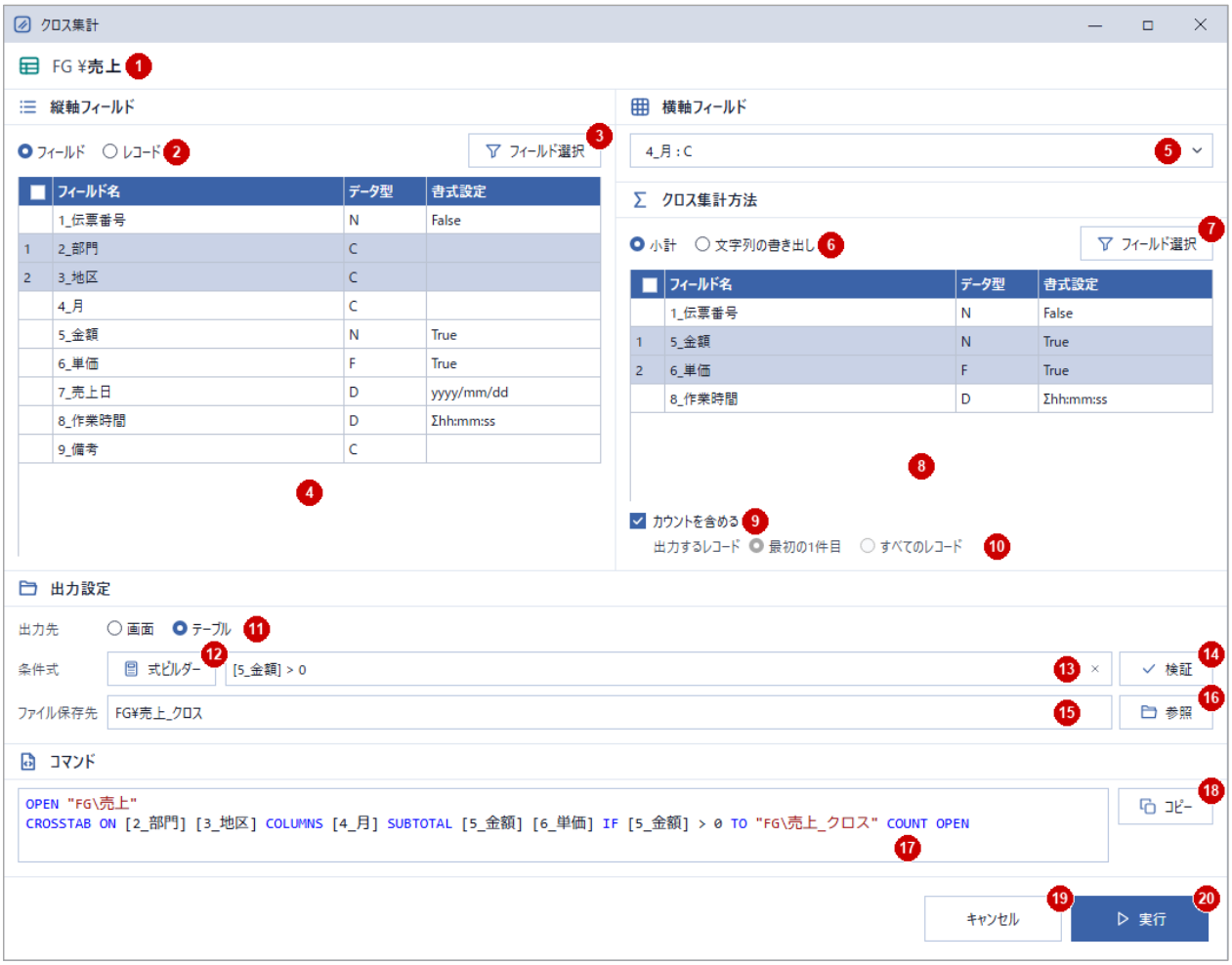
※横軸フィールドがテーブルにない場合は、テーブルの最初のフィールドが選択されます。

※「小計／文字列の書き出し」、「カウントを含める」、「出力するレコード」、出力先、条件式は、コマンドのとおりに設定されます。

※テーブルに保存したコマンドの場合は、保存先に「04_table」フォルダからの「フォルダ名¥テーブル名.hdf5」が表示されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇設定内容



1. 元のテーブル　：クロス集計する元のテーブルの、フォルダ名とテーブル名が表示されます。

2. 《フィールド／レコード》ボタン（必須）　：結果の行の単位を選択します。初期値は「フィールド」です。
   - 「フィールド」：縦軸フィールド（4）の値ごとに1行にまとめます。
   - 「レコード」：テーブル全体（条件式に合うレコード）を1行にまとめます。縦軸フィールドの一覧は使用できなくなり、選択は解除されます（「■「レコード」を選択した場合」参照）。

3. 《フィールド選択》ボタン　：「フィールド選択」画面を開き、縦軸フィールドをまとめて選択・解除できます。

4. 縦軸フィールド（必須）　：結果の行になるフィールドの行をクリックして選択します（もう一度クリックで解除）。
   - 左端の番号は選択した順番です。この順に、結果の列と行が並びます。
   - 見出しのチェックボックス（またはCtrl+A）で、すべてのフィールドを選択・解除します。
   - 「フィールド」の場合は、1つ以上選択する必要があります。

5. 横軸フィールド（必須）　：結果の列になるフィールドを一覧から1つ選択します。値ごとに列が作られます。初期値は、テーブルの最初のフィールドです。
   - 一覧には「フィールド名 ： データ型」が表示されます。すべてのデータ型のフィールドを選択できます。
   - 縦軸フィールドと同じフィールドも選択できます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

6.《小計／文字列の書き出し》ボタン（必須）
：セルに出力する値を選択します。初期値は「小計」です。
- 「小計」：クロス集計方法（8）の合計を出力します。フィールドを選択しない場合は、レコードの件数を出力します。
- 「文字列の書き出し」：クロス集計方法の文字列の値を出力します（「■「文字列の書き出し」を選択した場合」参照）。
- 切り替えると、一覧のフィールドが入れ替わり、選択は解除されます。

7.《フィールド選択》ボタン
：「フィールド選択」画面を開き、クロス集計方法のフィールドをまとめて選択・解除できます。

8. クロス集計方法（任意）
：セルに出力するフィールドを選択します。選択方法は4と同じです。
- 「小計」の場合は、数値型（整数・10進数）と、時間の書式（hh:mm:ss など）の日付型のフィールドが表示されます。
- 「文字列の書き出し」の場合は、文字型のフィールドが表示されます。
- 複数選択すると、横軸の値ごとに、選択した順にフィールドの列が並びます。
- 表示できるフィールドがない場合は、「小計できる数値・時刻フィールドがありません」または「書き出しできる文字列フィールドがありません」と表示されます。

9. カウントを含める
：オンにすると、レコードの件数の列（「カウント_」で始まる列）を追加します。初期値はオフです。「文字列の書き出し」の場合は使用できません。

10. 出力するレコード（最初の1件目／すべてのレコード）
：「文字列の書き出し」の場合に、セルに出力する値を選択します。「文字列の書き出し」に切り替えると、「最初の1件目」が選択されます。
- 「最初の1件目」：該当するレコードのうち、元のテーブルで最初のレコードの値を出力します。
- 「すべてのレコード」：該当するすべての値の組み合わせを、1行ずつ出力します。

11. 出力先（画面／テーブル）（必須）
：クロス集計の結果の出力先を選択します。初期値は「画面」です。
- 「画面」：結果をメイン画面に表示します。「小計」の場合は、最後の行に各列の合計が表示されます。
- 「テーブル」：結果を新しいテーブルとして作成します。テーブルの名前は15に入力します。

12.《式ビルダー》ボタン
：「式ビルダー」画面を開き、フィールドや関数を選んで条件式を作成できます。

13. 条件式（任意）
：クロス集計するレコードの条件を入力します。条件に合うレコードだけを集計します。空欄の場合は、すべてのレコードを集計します。
- 列（横軸の値）も、条件に合うレコードの値だけで作られます。
- 入力中に、関数やフィールドの候補が表示されます（Ctrl+Spaceで表示、Escで閉じます）。
- 「×」で入力内容を消去します。正しい条件式であることを確認すると、緑の「✓」が表示されます。

14.《検証》ボタン
：条件式が正しいかを確認します（Ctrl+Enter）。誤りがある場合は、メッセージが表示されます。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

15. ファイル保存先（テーブル）　：作成するテーブルの名前を入力します（必須）。出力先が「テーブル」の場合に入力できます。
    - テーブル名だけの場合は「04_table」フォルダに、「フォルダ名¥テーブル名」の場合はそのフォルダに作成されます。フォルダがない場合は作成されます。
    - 拡張子（.hdf5）は省略できます。「04_table」フォルダ以外の場所には保存できません。
    - テーブル名の長さは、64文字までです。
    - 記号（「-」「.」「＃」など）や全角スペースは使用できません。名前の最後に「¥」「/」、途中に「..」は入力できません。
    - 元のテーブルと同じ名前は使用できません（大文字・小文字やフォルダが違っても同じ名前とみなされます）。
    - 同じ名前のテーブルがすでにある場合は、上書きしてよいかの確認メッセージが表示されます。「いいえ」を選択すると、実行せずに画面に戻ります。
16. 《参照》ボタン　：保存画面を開き、保存先を選択できます。
17. コマンド　：現在の設定で実行されるコマンドが表示されます（「◇操作ログ」参照）。
18. 《コピー》ボタン　：コマンドをクリップボードにコピーします。
19. 《キャンセル》ボタン　：実行せずに画面を閉じます（Escキー）。確認メッセージで「はい」を選択すると閉じます。
20. 《実行》ボタン　：実行します（Enterキー）。クロス集計が終わると画面が閉じ、結果が表示されます（「テーブル」の場合は、作成したテーブルが開きます）。

■「レコード」を選択した場合

縦軸フィールドの一覧が灰色になり、選択できなくなります。テーブル全体（条件式に合うレコード）が1行にまとめられます。



© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

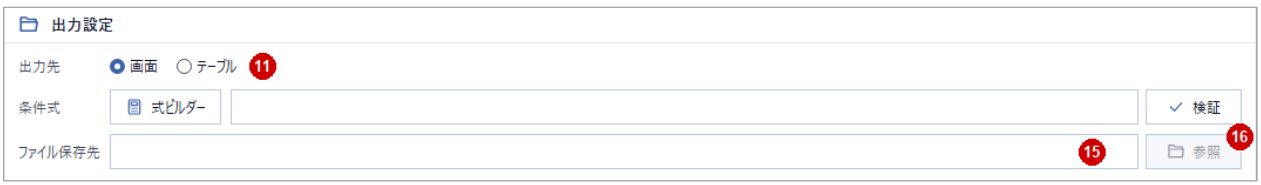
■「文字列の書き出し」を選択した場合

クロス集計方法の一覧に文字型のフィールドが表示され、「出力するレコード」が使用できるようになります。「カウントを含める」は使用できません。



■「出力先」で「画面」を選択した場合

「ファイル保存先」と《参照》ボタンは使用できません。入力済みの保存先は残りますが、チェックされず、使用されません。



◇クロス集計の結果

オプションの設定によって、結果は次のようになります。例は「◇機能」と同じテーブルで、縦軸フィールドは「得意先」、横軸フィールドは「商品No」です。

■ クロス集計方法を選択しない場合

セルには、該当するレコードの件数が入ります。列の名前は「横軸のフィールド名_値」です。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



クロス集計の結果

得意先	商品No_A01	商品No_B02
A社	3	1
B社	1	1
C社	0	1

※「カウントを含める」をオンにすると、列の名前が「カウント_商品No_A01」のようになります（値は同じです）。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

■ クロス集計方法を選択した場合（小計）

セルには、選択したフィールドの合計が入ります。列の名前は「クロス集計方法のフィールド名_値」です。例は「数量」を選択した場合です。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



クロス集計の結果

得意先	数量_A01	数量_B02
A社	12	5
B社	10	3
C社	0	3

※合計の列は、元のフィールドと同じデータ型になります。小数点以下の桁数は元のフィールドと同じで、時間の書式のフィールドは時間で合計されます（例：12:15:00）。

※複数選択した場合は、横軸の値ごとに、選択した順に列が並びます（例：「数量_A01」「単価_A01」「数量_B02」「単価_B02」）。

■ 「カウントを含める」をオンにした場合

合計の列ごとに、レコードの件数の列「カウント_フィールド名_値」が追加されます。合計の列の名前は「フィールド名_横軸のフィールド名_値」になります。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



クロス集計の結果

得意先	数量_商品No_A01	カウント_数量_A01	数量_商品No_B02	カウント_数量_B02
A社	12	3	5	1
B社	10	1	3	1
C社	0	0	3	1

■ 「レコード」を選択した場合

テーブル全体が1行にまとめられます。縦軸フィールドの列はありません。例はクロス集計方法に「数量」を選択した場合です。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



クロス集計の結果

数量_A01	数量_B02
22	11

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

■ 条件式を入力した場合

条件に合うレコードだけが集計されます。例は条件式「[数量] >= 6」の場合です。条件に合うレコードの商品Noは「A01」だけなので、「A01」の列だけが作られます。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



クロス集計の結果

得意先	数量_A01
A社	6
B社	10

※条件に合うレコードがない場合も、エラーにはならず、縦軸フィールドの列だけの（レコードが0件の）結果になります。

■「画面」に出力した場合

「小計」の場合は、最後の行に各列の合計が表示されます（縦軸フィールドの列は空欄です）。

元のテーブル（得意先・商品No・数量）

得意先	商品No	数量
A社	A01	4
B社	B02	3
A社	A01	6
A社	B02	5
B社	A01	10
C社	B02	3
A社	A01	2



画面に表示される結果

得意先	数量_A01	数量_B02
A社	12	5
B社	10	3
C社	0	3
	22	11

■「文字列の書き出し」で「最初の1件目」を選択した場合

セルには、該当するレコードのうち、元のテーブルで最初のレコードの値が入ります。例はクロス集計方法に「担当者」を選択した場合です。

元のテーブル（得意先・商品No・担当者）

得意先	商品No	担当者
A社	A01	佐藤
B社	B02	鈴木
A社	A01	田中
A社	B02	田中
B社	A01	鈴木
C社	B02	高橋
A社	A01	高橋



クロス集計の結果

得意先	担当者_A01	担当者_B02
A社	佐藤	田中
B社	鈴木	鈴木
C社		高橋

※該当するレコードがないセルは、空欄になります。件数の列や合計の行はありません。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

■「文字列の書き出し」で「すべてのレコード」を選択した場合

該当するすべての値の組み合わせが、1行ずつ出力されます。A社のA01には「佐藤」「田中」「高橋」の3つの値があるため、A社は3行になります。

元のテーブル（得意先・商品No・担当者）

得意先	商品No	担当者
A社	A01	佐藤
B社	B02	鈴木
A社	A01	田中
A社	B02	田中
B社	A01	鈴木
C社	B02	高橋
A社	A01	高橋



クロス集計の結果

得意先	担当者_A01	担当者_B02
A社	佐藤	田中
A社	田中	田中
A社	高橋	田中
B社	鈴木	鈴木
C社		高橋

※値は元のテーブルの順に組み合わされます。値の種類が多いと、行の数が大きく増えます。

■ 横軸の値と列の名前

※列は、横軸の値を文字として並べた順に作られます。数値や日付も文字の順です（例：「100」「25」「5」の順）。

※値に含まれる記号や空白は、列の名前では「_」になります（例：「2024/04/10」の列は「数量_2024_04_10」）。

※横軸の値が空欄のレコードは、名前が「BLANK」で終わる列にまとめられます。

◇入力内容に誤りがある場合

《実行》ボタンをクリックしたときに、縦軸フィールドが選択されていない、保存先が空欄などの誤りがあると、画面の左下にメッセージが表示され、該当する項目が赤枠で示されます。項目を修正するとメッセージは消え、《実行》ボタンが使用できるようになります。



※条件式に誤りがある場合は、実行時に誤りの内容を示す画面が表示されます。画面は閉じないので、条件式を修正してもう一度実行してください。

※「文字列の書き出し」で「レコード」を選択し、クロス集計方法を選択せずに実行すると、「エクスポートするフィールドを選択してください。」と表示されます。クロス集計方法を選択してください。

※「画面」に出力する場合、結果の列が100を超えるとメッセージが表示されます。「テーブル」を選択してください。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

◇操作ログ

OPEN "元のテーブル"
CROSSTAB TEXT ON [縦軸1] ･･･ **COLUMNS** [横軸] **SUBTOTAL** [方法1] ･･･ **OUTPUT ALLRECORDS IF** 条件式 **TO SCREEN COUNT OPEN**

各キーワードの意味は、次のとおりです。

キーワード	内容	設定内容
OPEN "元のテーブル"	クロス集計する元のテーブルを開きます	1
TEXT	「文字列の書き出し」で出力します	6
ON [縦軸1] ･･･	縦軸フィールド。選択した順に記述します	4
ON RECORDS	テーブル全体を1行にまとめます	2
COLUMNS [横軸]	横軸フィールド	5
SUBTOTAL [方法1] ･･･	クロス集計方法。選択した順に記述します	8
OUTPUT ALLRECORDS	「すべてのレコード」を出力します	10
IF 条件式	クロス集計するレコードの条件	13
TO SCREEN	結果を画面に表示します	11
TO "保存先"	結果のテーブルの名前	15
COUNT	カウントを含める	9
OPEN	結果を開きます	―

※下線部（オプション）は、該当する項目を設定した場合に記述されます。「SUBTOTAL」は、クロス集計方法のフィールドを選択した場合に記述されます。

※出力先が「テーブル」の場合は、「TO SCREEN」の代わりに「TO "保存先"」と記述されます。

※一覧のすべてのフィールドを行の順に選択した場合は、フィールド名の代わりに「ALLFIELDS」と記述されます。

■ コマンドを直接記述する場合（スクリプトなど）

※フィールド名は「[ ]」で、テーブル名は「"」で囲んで記述します。

※「COLUMNS」に記述できるフィールドは1つだけです。2つ以上記述するとエラーになります。

※「COUNT」「OPEN」は、「TO」の後に記述します。

※「TEXT」がない場合、「SUBTOTAL」に記述できるのは、数値型と時間の書式の日付型のフィールドだけです。

※テーブルにないフィールドを記述したり、結果のテーブルに元のテーブルと同じ名前を指定したりするとエラーになります。

© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.

オプションの例

オプションの記述	クロス集計の結果
ON [得意先] COLUMNS [商品No]	各セルにレコードの件数が入ります（「商品No_A01」など）
… SUBTOTAL [数量]	各セルに数量の合計が入ります（「◇機能」の例）
… SUBTOTAL [数量] TO SCREEN COUNT	「カウント_数量_A01」などの件数の列を追加します
ON RECORDS … SUBTOTAL [数量]	結果は1行（「22」「11」）になります
TEXT … SUBTOTAL [担当者]	各セルに最初のレコードの担当者が入ります
TEXT … SUBTOTAL [担当者] OUTPUT ALLRECORDS	担当者のすべての組み合わせを出力します（A社は3行）

※例は「◇クロス集計の結果」と同じテーブル（縦軸：得意先、横軸：商品No）です。

例

```
OPEN "売上¥売上明細"
CROSSTAB ON [得意先] COLUMNS [商品No] SUBTOTAL [数量] TO SCREEN OPEN
CROSSTAB ON [得意先] COLUMNS [商品No] SUBTOTAL [数量] IF [数量] >= 6 TO "得意先別" COUNT
OPEN
CROSSTAB TEXT ON [得意先] COLUMNS [商品No] SUBTOTAL [担当者] OUTPUT ALLRECORDS TO
SCREEN OPEN
```


© 2026 SanKei Biz Consulting, Corp.